

人権同和問題啓発強調月間



中山昭二兄いの四方山話(よもやまぼなし)



島づくり【体形】

若しき頃、東京で暮らしていた。島出身の友人と毎日のように銭湯を利用していました。そこでよく年配の人から聞かれたことが今でも思い出します。裸になった二人に「君たちは沖縄ね？奄美ね？」と言われ聞かれることでした。特に兵隊に行き戦争を経験した年配男性は沖縄奄美の人間の濃い顔立ちや体毛でわかるものらしい。私自身は濃い島づくりとっていないが、友人(名瀬芦花部)出身の彼は、顔が中東系で、体毛は猿人のごときであった。特に両腕の毛は素晴らしく指先まで毛で覆われており、まるでマガン(冬の味覚の川ガニ)のようでもあった。夏に電車に乗り、つり革を持つ彼の手は周りの注目の的でもあり、蚊などが腕に止まろうものならば網にかかった小魚のごとく逃げられない運命にあった。私は常々、「君の先祖は遠い昔、中東から東南アジアを渡ってきた人間の血が入っている。」と言うと彼は、「島には普通に自分みたいなタイプは多いよ」といって笑っていました。

数年前、国立科学博物館が古代の航海法で台湾から手漕ぎの丸木舟で黒潮を超え、与那国島まで渡る航海実験が行われました。このプロジェクトの目的は、「3万年前の縄文人ルーツを探る」ということでした。私はこのニュースで、すぐに友人のことを思い浮かべました。私たち(奄美人)は、果てしなく遠い地から渡ってきた南方からの血と北方からの血が混ざり合った言葉や風習があり、そのような文化を先祖から受け継いで奄美人独特な島づくりの風貌ができたのではと思うことがあります。

「人権」は、すべての人間が生まれながらに持っている、人間が人間らしく生きていくための、誰からも侵害されない基本的な権利であり、また、個人として尊重され、安全で安心して生活を送るために欠くことのできない権利です。一人ひとりの人権が尊重され、人権という普遍的文化が息づく「共生社会」を実現するためには、私たち一人ひとりが、人権問題を「自分自身にも関わりのあること」として受け止め、身近な人権問題について関心を持つことが大切です。この機会に、ぜひ皆さんも身近なことから人権について考えてみましょう。

第75回県体・第63回大島地区大会

第75回県体・第63回大島地区大会が、7月2日(土)から始まり、大和村では16日(土)17日(日)奄美フォレストポリスでラグビーフットボール競技を開催しました。結果は、全勝で昨年の雪辱を果たし優勝しました。また、カヌー競技でも強豪、瀬戸内町の連覇を阻んで優勝を飾りました。他の競技においても健闘がみられる大会でした。主な成績です。
優勝・ラグビー競技・カヌー競技
2位・バドミントン男子
3位・バドミントン女子・水泳競技(男女総合・女子総合)



航海の想像図



村指定 割舟「スフネ」

優勝を飾った大和チームのメンバー
地域の皆様へ夏休み中におけるお願い

大和村青少年育成村民会議・大和村校外生活指導連絡会では、夏休み中における青少年の健全育成のため防災無線による帰宅放送や巡回補導等を実施しています。「十の誓い」の遵守にご協力ください。

毎月19日は『育児の日』、第3土曜日は『青少年育成の日』、第3日曜日は『家庭の日』

十の誓い (児童生徒用)

1. 進んであいさつをします。
2. 早寝・早起きをし、朝ごはんをしっかり食べます。
3. 朝読み・夕読みをします。
4. 一日一汗を流します。(スポーツ・手伝いなど)
5. 夜間外出・無断外泊はしません。(午後6時の放送がなるまでに帰宅しましょう。)(集落行事や夏祭りの場合でも午後9時30分までには帰宅しましょう。)
6. 自転車の二人乗り・並進・飛び出しはしません。(ヘルメットを着用すること。)
7. テレビや携帯電話、ゲームなどのメディア機器は、家族と使い方のルールを決めて守りましょう。
8. 児童・生徒だけで、川や海には行きません。
9. 火遊びや危険な遊びはしません。
10. 集落の行事や子ども会活動に進んで参加します。